

会 議 録

会議名	令和7年度 第2回 丸亀市総合計画審議会
開催日時	令和7年10月10日（金）13:30～15:30
開催場所	丸亀市役所 4階特別会議室
出席者	<p>出席委員 吉澤康代、逢坂十美、齊藤栄嗣、福田康知、高濱和則、白川真由、相原しのぶ、美濃しおり、高橋勝子、高木和代、宮武凌司、大西裕子</p> <p>欠席委員 岩崎正朔、宮川諒信、岡田心羽、和家幸宏</p> <p>事務局 市長公室長 栗山佳子 (市長公室政策課) 課長 真鍋裕章、副課長 藤井慶子、主査 大川智</p>
議 題	<p>1. 第三次丸亀市総合計画（骨子案）について</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	<p>ただ今より、令和7年度第2回丸亀市総合計画審議会を開会します。議事に入る前に、本日の資料を確認します。</p> <p>それでは、丸亀市附属機関設置条例第7条に基づき、会長に議長をお願いします。</p>
齊藤会長	<p>それでは、会議を進めさせていただきます。本日の会議ですが、委員総数16名中12名の出席であり、丸亀市附属機関設置条例の規定により会議は有効に成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>本日の議事は、</p> <p>(1) 第三次丸亀市総合計画（骨子案）について</p> <p>(2) その他</p> <p>の2件です。まず、「(1) 第三次丸亀市総合計画（骨子案）について」事務局より説明をお願いします。</p>
大川	<資料に基づき説明>
高橋委員	<p>横文字については、注釈をつけるなど意味が伝わるよう改善をお願いします。</p> <p>また、基本方針Ⅳの名称について意見を求められていましたが、重要なのは言葉の使い方ではなく、具体的に何をするのか、目標に向かってどう動くかを市民と共有できているかです。総合計画のコンセプトである「市民と動かす」の視点を持って具体的内容をまとめていただきたいと思います。</p>
齊藤会長	<p>総合計画と市民との接点が見える化できればと思います。アンケート等で聴取した市民意見の反映箇所を計画中に示すなど、工夫していただきたいと思います。</p>

吉澤委員	アンケート等において次期計画で重点的に取り組まなければならない施策を把握されたと思いますが、基本方針や基本施策の並び順に反映されていますか。
大川	総合計画アンケートにおいて、重要度が高く満足度が低かった「公共交通」に加え、まちなか再生など市の重要課題と捉えているものは、並び順の上にはしています。
吉澤委員	<p>策定方針で市民のライフステージに焦点を当てると説明がありましたが、骨子案の体系図は従来の計画と変化がありません。本内容を基本に進めていくのであれば、あえて人に焦点を当てることを強調する必要はないと思います。</p> <p>また、「六方よし」と示されていますが、まちのイメージには合わないと思われま す。人が見えてくる基本方針も限られていますので、市民目線では少し違和感を覚 えるかもしれません。</p>
大川	<p>新しい総合計画の策定にあたっては大きく2つの視点を持っており、1つは行政目 線で施策体系をまとめ、進行管理をしやすいようにする視点。もう1つは行政目線 の施策体系を基本としつつも、市民にとって分かりやすく、まずは総合計画を手 に取 ってもらえるような見せ方を工夫する視点です。</p> <p>策定方針で説明した「人に焦点を当てる」点については、次回の会議に向け、ま と めていきますので、その際にご確認いただければと思います。</p>
齊藤会長	「市民と動かす」という熱意が感じられるような文章表現や見せ方が重要です。そのためにも、人という要素が目立つような作り方が求められると思います。
逢坂委員	「市民と動かす」、「市民の共感を得る」と表現していますが、市民と一括りにされるとどんな市民を指しているのか曖昧です。そのため、「丸亀は、ひとをイキイキさせるまち」を目指すといっても、自分はイキイキするのかイメージがわきにくいと思います。市民という言葉を使う場合、どのような人を念頭に置いているのか、あれば教えてください。
真鍋課長	<p>総合計画は市の最上位計画でありながら市民が関心を持たず、あまり見られない計 画であることが課題と認識しており、次期計画ではもっと人にフォーカスすること で 少しでも読んでいただきたい考えから、このコンセプトを打ち出しています。</p> <p>コンセプトの一環として作成するライフステージ別の施策マッピングにおいては、 これまで市民の対象が漠然としていて自分との関わり方が分かりにくかった点の解 消に向け、子育て世代や高齢者など主要なペルソナを複数設定し、そのペルソナと市 の 施策との関連を見える化することで市民の共感を得たいと考えています。</p>
齊藤会長	自治体の計画書では、すべての市民を含むという意味で「市民」という言葉を使いますが、市民側から見ると誰が対象なのか分かりづらい問題があります。特に外国人にとっては、計画中に「外国人」という言葉も余り出てこないもので、非常に分かりに

高濱副会長	<p>くいと思います。そのため、抽象的にならないよう具体的に言葉で示し、策定を進めていくことが必要だと思います。</p> <p>従来の総合計画は、現状分析から将来像を描く流れで進められてきましたが、将来課題を明確にする材料が不足しているように感じます。アンケートで市民の意見を集めることは重要ですが、回答は「今」に限定されがちです。そのため、短期・中期・長期の視点を持ち、日本全体の課題も踏まえて取り組む必要があります。</p> <p>また、「自助・共助・公助」の考え方を市民と共有することも重要です。防災を例にすると、最終的には行政が支援するものの、自助の意識がなければ支援も間に合いません。こうした基本的な考え方を行政が継続的に伝えることで、持続可能なまちづくりにつながると思います。</p> <p>一方、企業では成果指標を明確にし、毎年評価を行っています。自治体の計画においても、形だけでなく中身が伴うよう、将来の課題に対応した構成が求められます。</p> <p>いずれにしても、市民自らが参画し、理解しやすい形で提示されることが、計画の本来の目的であり、今後の改善点だと考えます。</p>
齊藤会長	<p>人口減少や少子高齢化など将来的な課題に対応した総合計画が求められます。また、市民が共感し、まちづくりに自然と参加したくなるような仕掛けについても考えていく必要があります。</p>
宮武委員	<p>総合計画は「我が事」として市民に捉えられるものでなければならず、そのためには、市民と計画との接点をどこに設けるのかが課題と感じています。特に、未来を担う子どもたちがこの計画に触れる機会を教育現場で設け、丸亀のまちづくりを伝えることが有効だと思います。その際には、大人でも難解に感じる総合計画の文言を分かりやすく、柔らかい表現で伝える工夫も必要です。</p> <p>また、市民を動かすためには、まずこの計画を市民に届けることが不可欠でし。接点がなければ共感も行動も生まれませんので、計画中にこれらの視点を盛り込むべきだと考えます。</p>
真鍋課長	<p>以前の総合計画では「こども版」を作成し、学校に配布したものの、持ち帰って終わり、若い世代との接点を十分に築けなかったという経緯があります。市民との接点をより意識した計画づくりと活用方法を検討していきたいと考えています。</p>
福田委員	<p>「市民と動かす」という言葉について、定義が曖昧で抽象的な表現のままでは、各部署がそれぞれ異なる解釈で取り組んでしまう恐れがあり、市役所内で定義を共有することが重要です。市民が「自分たちがまちを動かしている」と実感できるような仕掛けや説明があることで、計画への理解と共感が深まると感じています。</p>
大川	<p>主要な取組や基本施策ごとに、市民がどのように協力・参画できるかを例示することで、「市民と動かす」の定義を明確にしていきたいと思います。</p>

白川委員	<p>今後、コミュニケーションフレームを活用されていくと思いますが、これが総合計画に基づくものであることを皆さんに理解していただくためにも、様々な分野において用い、市民の目に触れてもらうことが大切だと思います。</p> <p>加えて、総合計画に関連したキャッチフレーズなどを添えることで、計画の内容が市民に伝わりやすくなるはずです。こうした視覚的な工夫は、計画への理解や共感を深める上でも有効だと思いますので、ぜひ取り入れていただきたいです。</p>
相原委員	<p>今回の総合計画には変えていこうという姿勢が強く感じられ、納得感もこれまで以上にありますが、市民の声をどう施策に反映させるかは依然として課題であり、それを具体的にどう活かしていくのかを計画に反映していただきたいと考えています。</p> <p>また、計画を市民と動かすにあたり、市役所内部が「我が事」として動いているかが重要です。これまで各課が目標を認識するとともに、それに向かって動いているのか疑問視する場面がありました。市民には見えづらい部分ですが、行政の意思が外に伝わることで、市民も「我が事」として捉えられるようになっていくと感じています。</p>
大川	<p>ご指摘の通り、まず行政が動かなければ市民も動きません。今後、各部署と調整を進めていくにあたり、我々の考えをしっかりと伝えていきたいと思っています。</p> <p>また、基本施策の指標をアウトカムに転換することで、施策が市民の満足度に直結しているかを可視化し、市民との接点について意識づけしていきます。</p> <p>更には、コミュニケーションフレームについても、名刺のデザインなども活用し、職員一人ひとりが総合計画を推進する模範となっていきたいとも考えています。</p>
齊藤会長	<p>市民の声が行政に直接届き、それがまちづくりにつながらなければ、市民と一緒にやっているとは言えません。市職員も市民も丸亀の未来を考えている点で共通していると思いますので、積極的に市民からの意見を取り入れていただければと思います。</p> <p>また、今後財政状況が厳しくなる中、観光を含めた新たな産業の創出が非常に重要ですので、計画にも反映されるべきだと思います。</p>
高濱副会長	<p>丸亀市は、世界の持続可能な観光地 TOP100 に選ばれるなど、少しずつではありますが魅力を発信しているところで、引き続き地域連携やイベントをなど通じて、観光の幅を広げていきたいと考えています。</p> <p>また、人口減少や高齢化が進む中、財源確保も重要です。観光や地域資源を活かした収益事業を展開し、持続可能なまちづくりにつなげていく必要があります。</p>
齊藤会長	<p>本日欠席されている宮川委員が関心を持たれている農業においては、収益につながる作物が少ないことが課題だと感じています。地域の農産物や食文化を活かした農業政策を進めることで、財源確保にもつながっていくと思います。</p>
美濃委員	<p>マルタスでは、高校生によるプランコンテストを実施予定で、観光や商店街の活性化をテーマとしたプレゼンを行います。資料の作成にあたっては地域の人たちへのイ</p>

高木委員	<p>インタビューを希望する生徒もいるほどで大変熱意を感じています。こうした取組を継続し、丸亀市に貢献するようなプランが生まれることを期待しています。</p> <p>市民一人ひとりが地域のことを自分ごととして考え、気軽に参加できる仕組みが必要です。市の講座やイベントへの参加でポイントが貯まる制度など、楽しみながら関わられる工夫があると良いと思います。</p> <p>また、定年退職後の市職員に地域で活躍していただくことも重要です。職員経験を活かし、行政とのパイプ役を担うことで地域の力に必ずなれると思います。</p>
大西委員	<p>丸亀市の各コミュニティでは様々な行事が行われていますが、地域の活性化に向け、世代を超えた交流や定期的な話し合いの場が必要だと感じます。例えば、小学校の児童と地域のお年寄りが意見を交わすことで、こどもたちの満足度や高齢者の思いを共有できる機会になります。</p> <p>また、地域行事も盛んでしたが、現在は商店街の閉店も進み、そうした交流の機会が減っています。認知症予防のための集まりだけでなく、もっと地域の課題や意見を話し合える場を設けることで、丸亀市の活性化につながるのではないかと思います。</p>
齊藤会長	<p>最近ではコミュニティ活動の改革が進み、若い世代も交流に関心を持ち始めています。スポーツ少年団のように、市職員が中心となって立ち上げた歴史ある活動もありますので、退職後の職員が地域に貢献する流れを再び活性化させることも重要です。</p>
高濱副会長	<p>人生100年時代を見据え、働ける高齢者が活躍できる社会づくりや、有償ボランティア制度の導入など、柔軟な仕組みが求められます。若者の参加促進にはポイント制度や特典などの工夫も必要で、まちづくりを市民と共に進めるには、こうした具体的な施策が欠かせません。丸亀市がより活性化するためにも、総合計画を柔軟に見直し、実行可能な形で取り組んでいただけるとありがたいです。</p>
逢坂委員	<p>観光資源が豊富な丸亀市ですが、近年はオーバーツーリズムの懸念もあり、宿泊施設の不足や市民の居場所の減少が課題です。総合計画では、観光振興と市民生活のバランスを考慮した施策が必要だと感じます。</p> <p>また、市民へのメッセージの「ちょうどいい」や「ちょっといい」という表現について、市民が言うには自然ですが、行政としては「より良い」「すごくいい」といった前向きな言葉の方が、目指すまちの姿にふさわしいのではないかと思います。</p> <p>更に、「基本方針VI 誇り愛されるまち」に向け、シビックプライドの醸成が重要だと感じています。世代を超えた交流やつながりの場ができれば、若者も地域に関心を持ち、継続的な関わりにつながる可能性があります。</p>
大川	<p>市民へのメッセージについては改めたいと思います。</p> <p>また、シビックプライドの醸成については、基本方針の一つとしてではなく、他の分野にも横断的に関わる重要な視点であることを踏まえまとめていきます。</p>

高橋委員	<p>「市民と動かす」という視点について、市民の意見を反映することに重点が置かれていますが、総合計画の目的はそれだけではなく、市民が課題を見つけ、行動に移す力を育むことが重要だと考えます。満足度だけでなく、行動変容を測る指標の設定が求められており、これこそが新たな総合計画の核になるべきです。</p> <p>また、子育て支援と少子化対策は本来別の政策であり、基本施策を分けて記載する方が適切ですが分類上の話であれば致し方ないと思います。一方で、「子ども家庭センターを核とした子育て支援の充実」という表現は、現状のセンターの役割と乖離があるため、再検討していただきたいと思います。</p>
齊藤会長	<p>「スポーツ振興」と「健康づくり」の間には、本来「生涯スポーツ」が位置づけられるべきだと考えます。現在の表現では、スポーツ振興が健康づくりに直結しているように見えますが、実際にはその間に生涯スポーツがあり、健康づくりへとつながっていく流れが自然です。</p> <p>スポーツ振興には競技力向上やイベント開催など幅広い要素が含まれる一方、生涯スポーツは誰もが継続的に取り組める活動であり、健康づくりと密接に関係しています。そのため、体系的にも「スポーツ振興 → 生涯スポーツ → 健康づくり」と整理することで、より分かりやすく、意図が伝わる構成になると思います。</p> <p>他にご意見やご質問がなければ、「(2) その他」について事務局より説明をお願いします。</p>
大川	<p><今後の日程について説明></p>
齊藤会長	<p>それでは、本日の会議を終了します。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>